

武雄市議会だより 栄八通信

第 30 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

H19年度 事業紹介

東川登小校改築2期工事



木造校舎を解体し、鉄筋2階建
5億7,501万円

西川登小校舎改築設計



耐震補強と教室リニューアル
2,043万円

東道線道路改良



拡幅と歩道整備
1 億 円 (北方町)

武雄・高橋線改良



朝日町栗原住宅付近
5,100万円

一般道路改良・舗装



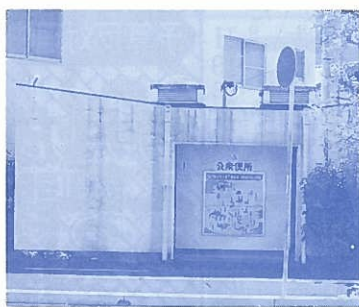
甘久の石木線等
1 億円8,300万円

北方中学校改造2期工事



耐震補強と教室リニューアル
1 億4,700万円 (北方町)

公衆トイレ改修・解体



旧武雄市中心部が主
989万円

【市長具約42関係分】

- 廃プラスチック処理 652万円
- 定住特区補助金 550万円
- 世界一登り窯まつり 200万円
- レモングラス栽培普及 15万円

障害者交流センター



カーテン間仕切り
55万円 (山内町)

北方町・山内町分

H19年度 一般会計予算 187億円(2億円微増)でスタート

昨年の、18年度予算は、合併後の、暫定骨格予算に、樋渡市長が当選後、市長公用車や、がばいばあちゃんのロケ誘致などの肉付け算が、6月以降に組まれた。

今、H19年度の予算は、市長の方針が、名実共に、当初より打合せ、予算になるので、凡人には、思いもつかぬような、大胆な予算案が、出てくるのではとの、不安や、逆に期待感もあった。

しかし、出された、H19年度予算の総額は、187億円で、H18年度より、約2億円程度の微増。各種会合で、思い切った提案をされる割には、取り立てて、大きな予算の変化は無く、前古庄市長時代から続く、高架・区画整理事業・農排や公共下水道等への特別会計繰出等が、中心となっている。

ところで、新年度予算を、大まかに、市民の方に説明すると、歳入の約2億円増加の原因は、市税が増加したためで、その内訳は、市民税が、定率減税の廃止で、実質増税になったことや、固定資産税が、3年ごとの課税基準となる評価替えによって増加し、また、たばこ税が、1本1円値上げしたもので、結局は、増税によるものと見る。

一方、支出については、人件費が、約40億円・扶助費(福祉や援助)約30億円・公債費(借金)約25億円・繰入金約22億円など、経常経費が、約90%をしめる。自由度が高いと言われる、投資的経費は、前年度の約18億円からH19年度は、約20億円に、2億円増加しています。

今回、西川登小の、校舎改築の設計予算が付いているが、1校分であり、現在、旧・武雄市及び北

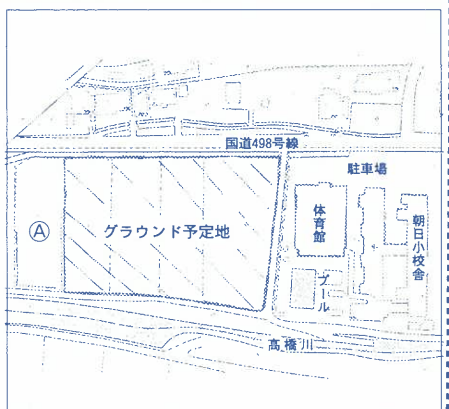
方町分の、2校改築体制が、今後は、1年1校改築へ、縮小される前ぶれとも見る事ができる。

一方、市民的に、目に見える形で、変化するのが、トイレ関係で、公衆便所を廃止し、駅南口や梅林、ミニ公園のトイレが、利用が少ない等の理由で、13解体廃止される。一方、白岩運動公園など6ヶ所は、簡易水洗ではあるが整備される。

道路関係では、北方の道焼米堤付近から、南への道路、東道線が整備される。また、主要道路として整備してきた、武雄・高橋線は最終年度となるが、一部用地交渉が進まず、市幹部の交渉に期待。

また、市長方針として、一般の道路整備費に、昨年度より約6千万円多い。1億8千3百万円が付けてあり、生活道路の補修や改良が期待できる。救急車の入らない地区は、この際、市に申し出るのも良いのではと思う。

ところで、行政で最大の支出である、人件費であるが、昨年0採用で、H19年度は、6人採用してあり、内2人観光専門職員。必要ない人員確保との事だが、市の将来の人員計画も、今後市民に示してもらいたい。



H18年度補正予算に 反対した理由 「朝日小グラウンド 拡張を」

平成18年度の最終補正予算に、朝日小グラウンド整備費、約1億8千万円の予算案が出されました。

私は、計画の約1万㎡でなく少年スポーツ会場として利用される江北町並の約1万5千㎡にするように主張し、反対しました。

もともと、朝日の第1第2保育所の統合移転に伴って整備する計画でした。それが、話が変わって、現在の朝日小約5千㎡のグラウンドに、新保育所を移転させ、朝日小が北側に、新グラウンドを作り、それを朝日町等の社会体育と共同利用しようと言うもので、それ自体は良い考えだと思います。

しかし、私としては、ある程度の広さを確保し、朝日町民はもとより、新市民も利用でき、それによって、合併特例債の活用できる形にしてもらいたかった。

結果、合併特例債4、600万円で整備し、しかも土地購入費の1億3千万円は、国の市町村合併推進体制整備補助金でまかなわれ、ほとんど市単独の支出はない。

ここで私が、こだわるのは、今回整備の1万㎡は、市立小学校の平均的な広さであり、そこで同時に社会体育やグラウンドゴルフをするには、小学校の専用面積を少なくする事になるので、やはり、この1万㎡とは別に3千5百㎡を確保し、両立する整備が必要で、また駐車場も校門から入って奥に行く形で児童との接触の心配もある。

地図で見ればA区画までは一体化して、そこまで広げたが、学校百年の計画からも良いと考えた。

予算反対理由

放課後児童クラブ
月額2,000円の有料化を
考える

H19年度の予算に、反対しました。

大部分は賛成ですが、一括採決方式なので議員の選択肢としては、予約全体への賛成か反対か、棄権の方法しかありません。

現実的な状況として、旧武雄市の半分程度と北方・山内町の大半の議員を与党に持つ樋渡市政の提出する議案は、ほぼ100%否決されることはないと思われます。

そこで、私は、あえて反対の立場を取って問題点を明確にし、改善を求める方が、市民の為になるとの考えからの行動です。

そこで、反対の理由の主な案件である。放課後児童クラブの、月

額2,000円の利用料金の有料化問題ですが、もちろん、受益者の一部負担を否定するものではありません。

反対の論旨としては、新に、子ども部まで新設し、子育て支援を指している武雄市において、十分な、効率化や、国の補助制度活用なしに、安易に、有料化案が出されていることです。

具体的に説明すると、市の有料化の理由としているのが、県内の鳥栖市を除く各市は、ほとんど有料化しているとの理由。

また、月額2,000円の根拠として、H19年7小学校区から、市内全10校(クラブ)に開設を拡大

し、総経費から、国の補助金を引いた市の負担の1/2相当額を利用者数で割った金額との説明。

私の反論としては、鳥栖市以外には有料化していると言うが、表1のように、利用料とは別のおやつ代が有料で、武雄市はおやつは、元々ないので、利用料のみで比較しなければ、正しい比較とは言えない。利用料金のみで見れば、鳥栖市・佐賀市・嬉野市は、無料で

あり、多久市1,200円・唐津市1,500円・小城市1,500円と、県内市のランキングで言えば、1位から7位へ、こども部まで作った今年度、一機に下がる必要があるのか、大いに疑問。

また、利用料月額2,000円についても、総経費から、国の補助金を引いた、市負担の1/2との根拠にも、一考の余地がある。

元々、この制度は、放課後児童クラブを運営できる基準額があり

その%を国が出す制度で、その多額を市が出す必要のない制度。ここで、私が、問題とするのは、国の補助金が、二段階に分れていて、たとえば、御船小のクラブで言えば、現在年242日開設の為に、基準額が二段階の下ランク(特例)になり、約161万円となるが、281日開設すれば、上のランク(通常)の約359万円と2倍以上である。そうならば、当然市の負担が減り、たとえ、1/2を有料化しても、500円程度の利用料でも運営できる。

(表1) 県の放課後児童クラブ実施状況(10市)

市 名	利用料	おやつ代
武雄市	無 料	—
鳥栖市	無 料	2,500円
佐賀市	無 料	1,500円
嬉野市	無 料	2,000円
多久市	1,200円	1,300円
唐津市	1,500円	クラブごと
小城市	1,500円	1,500円
神埼市	2,000円	1,500円
伊万里市	2,500円	1,200円
鹿島市	3,000円	—

いと判断した。

市長は、論旨として、特別会計は、その受益者で負担すべきとの筋論を展開されるが、では、農業集落排水特別会計の維持経費は、利用者が全て出していないし、競輪特別会計も赤字でも続けるならば補助も必要である。また工業用水道特別会計などは、ほとんど本会計からの繰出しである。

また、私は、少しでも、市が一般会計から、支出すれば、他人事から、我が事への意識が変わるのではとの期待もあり、あえてH19年度の国保特別会計の予算に反対し、問題を明確にしたわけです。

(表2) 国保の所得別の世帯数

所得階級	世帯数
0 円	3,786戸
100万円以下	2,954戸
200万円以下	1,664戸
300万円以下	834戸
400万円以下	389戸
500万円以下	184戸
600万円以下	185戸

0円の世帯が一番多い実態行政の支援も必要と思われる。

武雄市民病院の将来計画
昨年9月にすでに報告書が提出されていた

武雄市民病院の当初の計画によれば、H17年度には黒字化する予定であった。しかし、医療改革等で、医療単価が下がるなどとして、赤字が続いている。

ただ、赤字が、現金支出のいらない、減価償却費以内におさまっている為に一般会計からの繰出しは現在ない。

しかし、当初の計画が、崩れた以上、今後の将来計画の練りなおしは必要になって来る。

市は、H17年度に経営診断を、H18年度に経営改善計画を、(財)佐賀経済調査協会に、計1,400万円をかけて、発注していた。

どういう訳か、報告書の日付けは、H18年9月だが、多くの議員が、内容を知ったのは、今3月議会であり、積極的な公表がされていなかった様にも思える。

経営診断と経営改善の報告書の関係では、診断で悪い所を改善する形で、似たような内容です。

①病院の移転新築

旧国立病院の構造物を、そのまま引き継ぎ、病室等が、新基準に対応していない。また、柏岳の麓に立地し、各地からの通院が不便で、民間病院は、患者環境の改善のために、改修・新築移転を実施しているなど、差は拡大。

②人件費の削減

看護師給与総額が、健全経営自治体病院の2倍になっていて、入院数に対応した人員配置や、准看護師や臨時採用等の実情に応じた採用をすること。また、事務職員を、市の一般職員から派遣しているが、高給待遇で2〜3年で移動、年間5千万円にもなるので1〜2名残し、後は病院職員として採用

するか、独自給与とする。

③公設民営での経営

正式に、報告書では、「地方公営企業法の全部適用」との表現ですが、要は管理者が、現在市長だが、たとえば、病院長を管理者としてその権限で切り盛りする方法。

④委託業務の低減

以前から言われていた、業務委託費が多いこと、医療収入の同程度の多久市民病院が5・5%に対し武雄市民病院は、13・6%と2倍以上になっている。特に、(給食・受付・清掃・警備・ボイラー・CT・MRIの保守等)を指摘。

⑤オーダーリングシステム導入

これは、事務をコンピュータ化して、苦情の多い待ち時間減少。その他に、地域の医療機関との顔の見える連携「経営幹部の強いリーダーシップ・ホームページによるPR・土曜診療の開始・結核病床の返上の検討、などが上げられている。

この経営改善報告書は、私が以前から言っていた主旨と同じで、全面的に評価している。

この報告書の作成された、時と同じH18年9月の議会で、報告書の内容は知らず、市民病院の移転の提案をしたが、市長は、当面考えていないとの答えだったが、この報告で上げられている以上、再度考えてもらいたい。

私は、近年は、病院会計への一般会計からの繰入れがなければ、とりあえず良いの思いだったが、伊万里市民病院と西有田共立病院の統合移転による、生き残り策の動きを見ていると、武雄市民病院との差が開き、佐賀大学等の医師が、やはり、医療環境や病床例の多い方を選択され、逆に武雄の方

予算反対理由

国保特別会計に補助を
すべきかを考える。

国保は、公務員の共済や会社の社会保険以外の、自営業・農業者を基本とする、健康保険制度だが、現在、会社退職後の人や、フリーター・パートなどの、低所得者や、また失業者など、生活弱者の受け皿化して来ている。

今議会、国保税が、所得金額の11・1%に値上げされた。旧武雄市の住民では、H17年度9・2%で、新市のH18年度は、9・9%、そして今回の連続値上げである。

もちろん、武雄市の国保加入者が、利用した医療費の国の補助を除いた分を集めているだけとも言える。

大まかな、H19年度の国保の収支の予定を説明すると、医療費約

37億円の内、国等の補助が約16億円あり、残りの12億8,631万円を、保険加入者から集めなければならぬ。

そこで、今回11・1%にするが、11億5,156万円の収入で、まだ、3,640万円は、不足し、赤字の予算である。

だから来年、また再度の値上げは確実と思われる。

私は、今回の緊急避難的な値上げは、やもうえないと思う。

しかし、ただ市行政として、国保に支援をしなくて良いのか?との疑問を持つ。

○第1点は、パートなどの非正規雇用は、社会制度の歪みとして国保に寄りかかっていて、地方自治

が、急に傾いていく危惧もある。やはり、私が昨年9月議会で提案した。不採算の結核病床の返上や、できれば、大町町立病院との統合により、採算ラインの病床2000床程度を確保して、交通の便の良い所に移転整備すべきと思う。そこに、進む為には、武雄市民病院

が、地域の総合的急性期病院として必要なのか、白石や嬉野の病院でも替われるのかの確認が前提である。ただ、国立病院から移管後、10年間（H21）は病院以外の利用（移転）はできないが、3年後、今から考えても遅くはない。

私の質問と市の答弁

1. 1員約等の実施について

1. 企業・学校誘致の段取り

市民が具約の中で一番期待した企業や学校誘致、多久市や唐津市では数社が着々と立地しているが、武雄市の状況は？

【市の答弁要旨】

企業誘致は、現在、工場立地調査をコンサルに発注し、3月までに完成する。また、女子中高一貫校は、新幹線が着工すれば進出されるとの答弁。

2. 水道料金、固定資産税・介護保険料の値下げの方針は？

【市の答弁要旨】

水道料金値下げについては、12億円の利益積立金や新市における、過剰設備の統廃合や民間委託による、経費削減等を含め、現在庁内検討委員会現在話合っていてしばらく時間が必要との答弁。固定資産税の値下げについては私が、新市を機会に、国の標準税率1・4%から始めて、不足する時に、上げるべきと提案したが税

率は、「専門審議会」で、出される、との答え。

各市の税率

	固定資産税(%)
佐賀市	1.4
鳥栖市	1.4
神埼市	1.4
唐津市	1.4
小城市	1.4
多久市	1.5
伊万里市	1.4
鹿島市	1.5
嬉野市	1.4
旧武雄市	1.55

一方、この「専門審議会」は、同じ委員会が、水道料金や、固定資産税等の審議を兼ねて行なうとのこと、市長は、ところ天にたえて、次々にスピーディに結論が出るの考えのようだ。しかし、

一方が難航すれば、後がつかえる場合も予想される。

また、介護保険料の値下げについては、新年度より、武雄市庁内で検討するとの答え。

2. 子育て支援について

①放課後児童クラブ有料化

(別記)

②子供の遊び場整備

旧北方町には四季の丘・山内町には中央公園があり、旧武雄市の一日中遊べる公園としての保養村「わんぱく広場」の整備進捗は？

【市の答弁要旨】

旧武雄市では、計画していたが現在、保養村に遊具の整備など、ハード事業は考えていない。

3. 公用車貸出での子育て支援

市有財産の有効活用策として、不使用中の公用車の貸出を始められたが、ボランティア行事に限られていたの、現在、わずか2件の利用しかない。そこで、利用を子育て支援まで拡大し、少年スポー

ツの旧北方町で行われていた九州大会等の遠征等にも利用できるようにして有効活用しては？

【市の答弁要旨】

今後、子育てまで広げる為の基準作りを検討して行く。

3. 営業部関係について

①市の融資制度の利用拡大

以前の貸付金は、設備資金7年以内と運転資金5年以内の2本だったが、数年前、バブル崩壊による売り上げ減少で、返済が困難な企業の倒産防止で、長期返済に借り換える借換資金融資制度が作られたが、対象が、市の制度融資のみの一本化で、県や市中金融機関の借入れとの一本化はできず、利用しにくい。返済期日も運転資金と同じ5年以内で、借替えのメリットが少ないので、制度の改善を。

【市の答弁要旨】

当面、市と県の制度融資の借換え一本化を金融機関と話し合う。

2. たけお競輪の課題

市長は、中国人客による競輪の経営改善を揚げられるが、私は、場外発売所（サテライト）の進出が現実的と思う。空白地は、沖縄や、福岡西部しかない。少ない空白地なので、結果はともかく、早く動くべきでは？

【市の答弁要旨】

もう、沖縄は、他の競輪場が動いているし、福岡西部は、ポートがあり、難しいとの見通し。また、同時に、全国の車券購入者は、モニター画面で、武雄競輪を知る、画面に写る、黄色地に、マスコットのたけ丸やたけお競輪の文字の部分が、あまりにも汚れているので補修を？の問いに、高校総体前にめり替えるとの回答。

3. エポカル武雄・保養村の名称変更と観光パンフレット

現在、新武雄市の観光パンフレットを作成しているが、市長は、エポカルと保養村の名称が良くないとして変更する意向だが、それな

ら、早く変更して、パンフレットに新名称で作成すべきと提案。しかし、担当課では、追加増刷の時に変更すれば良いとの事だが、やはり、初版が、大部分に行渡り、その後の追加は少ないので、初版から変更すべきでは？

【市の答弁要旨】

市長は、「変更には、時間がかかる」との答え。

しかし、変更の発言から、もう何ヶ月もたっているし、もし、追加分でも変更した場合、以前の分が、一機に旧パンフレットになり、大量の無駄になる可能性も。

4. お祭り一本化（省略）

4. 教育行政について

①朝日小学校グラウンド整備

(別記)

②公立幼稚園の通園区域の不公平

合併で、北方幼稚園が、新市の公立の幼稚園となった。合併前の合併問題特別委員会では、新市になれば、通園は、市内全域と言う説明だったが、実際新市では、旧北方町のみを入園区域としている。問題点は、保育園は、公立・私立の保育料に差はないが、幼稚園は、公立は私立の約1/3と、税で支えられている為か、安く、大きな格差があり、著しい不平等があるので、早急の対応が必要？

【教育委員会の答弁要旨】

これから、問題点を調整しながら、進めて行くとの答え。で、私には、積極的な改正への意気込みは、感じられなかった。

5. 公立中学校での給食の実施

武雄市だが、食育の主要施策の一つである学校給食だが、県立中学校では、給食が無い。県中の半分の生徒は、市内の子供と思われ、その分は、地場産品の利用縮小や、市内業者の減収にもつなが

る。一方、学校給食法には、義務教育諸学校の設置者の責務として、学校給食の実施が定められている。市町村教育委員会を指導する、県立中の設置者である県教委が、法律違反の状態である。そこで、県教委に、県立中に給食の実施をお願いしてもらいたい？

【教育委員会の答弁要旨】

県の学校教育企画課に問い合わせたが、実施の予定はない。との返答を受けたとの説明。

しかし、私が、県の学校給食の担当課や、後で、県教委企画課に

ミニ情報コーナー

○かんぽセンター購入者は祐徳温泉関係のグッドナビが約1億円で、市から購入され、ひと安心。

ただ、契約では5年間、温泉や旅館業ができなければ、市が再度買い取る事となっていて、そうならない事を祈る。

○武雄市観光協会に、市職員を派遣する。給料は市が払い年8百万円程度を負担し、がばいばあちゃん等の宣伝に力を入れる。

ところで、私は、約30年前の23才の頃、逆に観光協会の職員で、武雄市の観光課に派遣されていて、今回の、白浜氏の横で、観光協会

自立の為の準備をし、独立したとの恩念めいたものを感じる。ただ、当時は給料7万円だった。

○県立中学校への市内からの入学

今議会、市長は、武雄の旅館批判を展開された。主旨としては、がばいばあちゃん関連で、観光客が増加しているのに、旅館が、それに対応した企画をしていないという。

また嬉野の旅館関係者からは、樋渡市長にお礼の電話が多く寄せられたとのこと。実際、H19年度の予算で

再度、問い合わせた所、実施について考えてみるとの返事だった。

市長が、食育の講演会で、学校給食を、週1回か、月1回か、弁当の日とした方針が表明され、保護者の一部の方からは、実際どうなるのかの質問も受けるが、具体的な方針を聞きたい？

【市・教育委員会の答弁】

弁当の日を、強制するものではない。各学校の判断にまかせるが、もう、弁当の日の実施を計画している学校もあるとの回答。

者は、4クラス160人中に、約95人程度で、武雄市中区で65人、北中区で3人、川登中区で6人、山内中区で11人、北方中区で14人程度と推測できる。やはり武雄区では、約1/3と多い。(独自集計)

○保育所の民営化について、若木と朝日(第1・第2)が、予定されているが、若木は公募してあるが、朝日の方は、公募はなく、地元業者に、まかせるとの話も聞くが、やはり公のものだから、結果は別として、公募すべきとの声も。

○競争事業のH19年度予算は、約1億円の赤字になっていて、これまでの2億円超の赤字から半減している。古庄時代のみぞべのサテライトや、故馬渡課長の努力にも起因するものと思う。残り1億円は、黒字化の射程圏内！

は、宿泊・日帰り滞在での入湯税が、昨年度より逆に300万円減を見込む。一方、嬉野市のH19年度の予算では、7、859万円と、前年度より約150万円増を見込む。

ただ、武雄の旅館は、大きく投資した所が倒産し、着実に、身のたけに合った経営で生きて来た歴史もある。単なる旅館への責任転嫁でなく、現実的議論の積み上げで、活性化をして欲しい。

がばいばあちゃん入湯税

今議会、市長は、武雄の旅館批判を展開された。主旨としては、がばいばあちゃん関連で、観光客が増加しているのに、旅館が、それに対応した企画をしていないという。

また嬉野の旅館関係者からは、樋渡市長にお礼の電話が多く寄せられたとのこと。実際、H19年度の予算で

県のゴミ処理広域化計画

地域	主な市	人 口	処理量	年間発電量 と世帯使用分
東 部	佐賀市 多久・小城市	30万人	393 t/日	1,854 - 5,521 万kwh 世帯
中 部	鳥栖市 神埼市	15万人	150 t/日	763 - 2,271 万kwh 世帯
北 部	唐津市	14万人	135 t/日	914 - 2,724 万kwh 世帯
西 部	武雄市 伊万里市	26万人	251 t/日	1,685 - 5,019 万kwh 世帯

施設建設タイムスケジュール

18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年
推進協議会設置	基本計画		造成工事	建設工事					本格稼動
	用地選定・交渉								

施設名称	処理能力	処理方式	整備費用	1t当単価	施工業者
鳥栖・三養基西部	132 t/日	ガス溶融	57億円	4,300万円	住友金属
佐賀市清掃センター	300 t/日	ストーカー	151億円	5,000万円	荏原製作
北松北部クリーンセンター(長崎県)	70 t/日	ガス化溶融	39億円	5,500万円	川崎技研
糸島クリーンセンター(福岡県)	200 t/日	ガス溶融	121億円	6,000万円	新日鐵
県央県南広域環境(長崎県)	300 t/日	ガス化	147億円	4,900万円	三菱重工

西部ゴミ処理センター

始動

今、3月議会で、佐賀県西部広域環境組合に参加する議案が通って、いよいよ、杵藤クリーンセンターに変わる、新施設への取り組みがスタートする。

これは、現在の杵藤地区と伊万里市・有田町で共同処理する。本格稼動は、平成27年度で、約10年計画であるが、先進事例もその程度であり、またタイムスケジュールは、左図のようになります。

一番問題になるのが、建設場所ですが、広域になる為に、距離的な中間地点の複数候補地から選択し、H21年までの買収予定。施設については、県のごみ処理広域化計画に基づいて、動くこと

区域人口約25万人で、1日1人当たり、約718g排出を基礎に計算してあり、日処理量251t規模。これを、杵藤・伊万里・有田に分れて建設すると、190億円かかり、広域化すると178億円程度で済み、約11億円が節減できるとしていて、また施設の運転経費も効率化できるとしている。

さらに、施設も最先端で、24日時連続運転・焼却発電・スラグ化(消却残を熱で処理し無害化する)し、ダイオキシンも1ナリグラム以下の排出に抑える計画。

一方、近隣の処理施設の建設費用の例も上げられているので照会すると、図3のようになるが、単

思われる。通常、県の計画は、構想的なものが多いが、この計画は、具体的で、収集運搬計画から施設建設単価まで示してあり、私は評価している。

それによる、施設は、区域人口約25万人で、1日1人当たり、約718g排出を基礎に計算してあり、日処理量251t規模。これを、杵藤・伊万里・有田に分れて建設すると、190億円かかり、広域化すると178億円程度で済み、約11億円が節減できるとしていて、また施設の運転経費も効率化できるとしている。

さらに、施設も最先端で、24日時連続運転・焼却発電・スラグ化(消却残を熱で処理し無害化する)し、ダイオキシンも1ナリグラム以下の排出に抑える計画。

一方、近隣の処理施設の建設費用の例も上げられているので照会すると、図3のようになるが、単

市長新提案

新幹線2段階論と

国道34号バイパス現道拡幅論

今、議会で、樋渡市長の、重要課題への新提案が表明された。

まず、新幹線整備のあり方について、議員から、現在予定されている、フリーゲージトレインでの新幹線は、時間短縮効果などのメリットが少ないので、やはり、通常のフル規格の新幹線整備でないか意味が無いのではとの質問に対して、市長は、まず、フリーゲージで整備し、その後、フル規格に変えて行くとの二段階論を表明。

私も、どうせ整備するのなら、通常のフル規格が、効果があると思うが、この二段階論には、賛成しかねる。その理由は、一方は、新線建設で、投資対象が別。たとえば、肥前山口ー武雄温泉間の複線化工事は、無駄になるなど、二重投資に対しての、県民全体の賛同

は得にくくなるのではと思う。もともと、この新幹線長崎ルートは、数十年前、原子力船むつが故障し、修理の受入れ先がなく、佐世保が、新幹線整備等条件に受け入れた、政治路線であり私から言わせれば、佐世保への分岐点の武雄までは、国費で整備を求めても良いのではと思う。

一方、市長が、目指す観光地の富良野や黒川・湯布院には、新幹線は通っていない。

次に2案目の、国道34号線のバイパス建設に関しては、現在、江北バイパスまで完成していて、後、大町ー北方ー武雄間が未着工である。市長は、新平道路を作らず、現国道34号線を拡幅したバイパス兼用道路にするとの提案。

り約200mは、開削工法。幅約1m、深さ約1m、3mで道路の右にNTT管、左に水道管がすでに埋設してあるので、その中央に下水道管を埋設する計画。ただ、川端から、温泉通りまでの松原交差点付近は、JR佐世保線を横断するので、H20年4月の高架切替後に連結する事になり、高架の遅れが、下水道にもひびいて来た形になっている。

これからの課題としては、掘削面の復元は、事業費から出るのそれをうまく利用して、レンガ調のカラー舗道補修に役立てること。

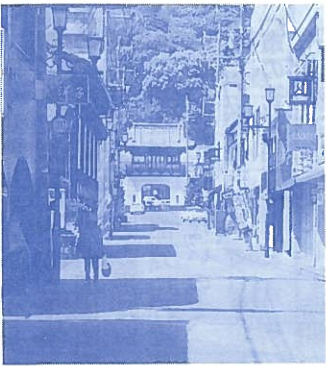
また、市街地は、高齢化が進み公共下水道接続が進まない可能性もあるので、早目の説明や加入者組合設立、融資制度作りが望まれる。今議会、農排や公共の下水道接続の促進には、市長を先頭に全職員で当たるとの明言で、その実施、実現を期待している。

制作後記と今後のプラン

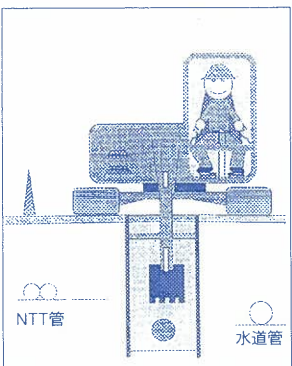
新市がスタートして、行事等も一巡し、いよいよ、知る段階から改革する、実行する段階に入るものと思う。何回も述べるが、旧武雄市からの長年の懸案である、県内一高い水道料金や固定資産税の値下げが、市長の具約に従ってH20年度から実施されると思うが値上げ、一時的な小手先の調整でなく、合併のメリットを生かし、抜本的今年度改革の中から、値下げされるよう議員としても提案して行くつもりです。

一方、私が毎日、調査研究している、市役所4階の控室の窓の前には、新南国ビルが、でっかく建設中で、以前は、宮の町夢本陣のイルミネーションも見えたのですが、変化を実感しています。

また、この栄八通信も、佐賀新聞に折り込んでもらえない為、宅配会社にお願ひし、市民の方に情報を伝えるべく努力しています。



工事する温泉どおり



中央部を開削する